

高度即時的地震情報伝達網実用化プロジェクト

研究開発のターゲット: 地震動到達前の緊急地震情報の伝達による画期的防災体制の確立

研究者名: 防災科学技術研究所、気象庁等

参加している産業界: 電力、ガス、電気通信事業者等

(リアルタイム地震情報利用協議会を設立し、消防庁、大学関係者、企業等が参加)

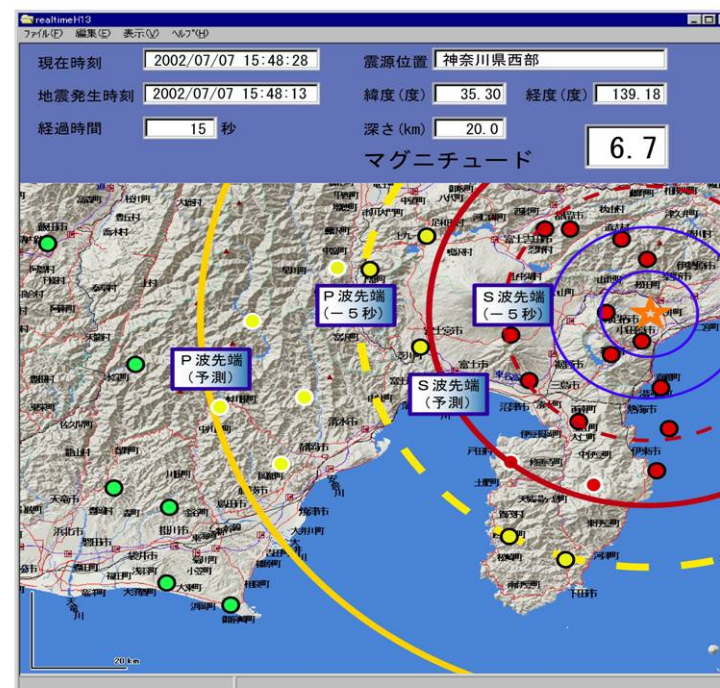
利用例: 主要地震動 (S波) が来る前に、以下のような対応をする。

- ・ 電気、ガス、工場生産ライン、エレベータを止める
- ・ 地震情報の伝達による、安全体制の確保 等

研究の概要:

高度即時的地震情報伝達網実用化プロジェクトは、地震の規模、場所等の情報を主要地震動 (S波) の到達前に、自治体、重要産業施設等に伝達することにより、自動的に緊急防災措置を講ずることを目指すもの。

研究途上の「リアルタイム地震情報 (防災科研)」の成果を活用し、「緊急地震速報 (気象庁)」の更なる高度化を図るとともに、地震情報の高速・高度化と迅速・正確な伝達手法の開発により、5年以内の実用化を目指す。



主要地震動 (S波) 到達前の緊急地震情報伝達により地震動被害の飛躍的軽減を図る